



教育目標「気概にあふれ主体的に考え行動する生徒」

～小さな学校の大きな誇り～

花巻市立湯口中学校

校報 No.35

令和8年9月16日

文責：校長（菊池）

働く上で必要なことを学んだ2日間

2年生は、9月1日（火）・2日（水）の2日間、下記の事業所で職場体験学習を行いました。それぞれの事業者様が取り組む作業の工夫、体調の管理に配慮していただいたおかげで、働くことの意義や大変さについて体験を通して学ぶことができました。また、各事業所からは高い評価をいただきましたので、自信にしてほしいと思います。

受け入れ、指導していただいたことに感謝し、何らかの形でお返ししたいものです。



いわて花巻空港



風の季



HAIR&MAKE EARTH

《職場体験学習にご協力いただいた事業所》（順不同・敬称略）

- ・麻生大谷学園 湯口大谷幼稚園
- ・ガーデンリゾート悠の湯 風の季
- ・湯の杜 ホテル志戸平
- ・株式会社 大沢温泉
- ・結びの宿「愛隣館」
- ・花巻温泉株式会社
- ・ツルハドラッグ 西大通り店
- ・ウエルシア薬局花巻南川原店
- ・ゆぐち薬局
- ・特別養護老人ホーム 大谷荘
- ・盛岡・家庭裁判所 花巻支部

- ・HAIR&MAKE EARTH 花巻店
- ・中華ダイニング チンシュイ
- ・ナディアバイカリス
- ・有限会社 西山工務店
- ・花巻郵便局
- ・エムズエクスポ花巻店
- ・総合花巻病院
- ・一品香
- ・いわて花巻空港 鈴与
- ・いわて花巻空港 日本通運
- ・ミッシェル 花巻本店

《ある事業所の職場体験学習についての評価》をご紹介します

この度は、職場体験にお越しいただき、誠にありがとうございます。慣れない環境の下、知らない大人に囲まれながらの職場体験は、体力的にも精神的にも疲れたと思います。2日間本当にお疲れさまでした。

お仕事をする上でもコミュニケーションは大事です。お客様への気配りはもちろん、社員同士でも「自分はどんな人と働きたいかな」と相手の立場に立って考えて実行してみると印象が良いと思います。ひとつの会社の中には、様々な部署や仕事があって、皆で分担して会社を支えています。自分の興味があることや得意なことに一見関係がない職業でも、意外なつながりがあったり、視野を広げれば間接的に関われる仕事もあるかもしれません。難しいことですが、就職すること自体が目的となってしまうまいように将来の夢や目標に向かう手段としてお仕事に就けますよう祈っております。

今回の職場体験が皆さんの将来を考える上での一助となりましたら幸いです。

人生の先輩から学ぶ

1年生は、9月2日（水）の5・6校時に、「働くことの意義について学ぶ」「職業について知ること」「将来の進路選択の幅を広げること」「自分を見つめること」をねらいに、『未来パスポートプログラム』を実施しました。

生徒は下記の社会人講師9名のうちそれぞれ2人のお話を聞き、自分の生き方や進路について考えを新たにしました。最後には講師の一人、佐々木優斗さんから歌のプレゼントをいただき、お返しに本校の歌「絆」の合唱を披露しました。

○は本校の卒業生

社会人講師の皆さん		
○高橋	利光	さん (J A花巻)
○鎌田	征丞	さん (和同産業／製造業)
宮原	颯希	さん (岩手銀行／広報室)
佐々木	靖裕	さん (志戸平温泉／サービス業)
○佐藤	利桜	さん (志戸平温泉／サービス業)
○瀬川	裕行	さん (たかしん興業／建設業)
福司	聡	さん (明治安田生命／保険業)
吉田	大輔	さん (中央コーポレーション／鉄構業)
佐々木	優斗	さん (日めくり／ミュージシャン・HP制作)



百聞は一見にしかず

3年生は、スローガン『今しかないこの瞬間を全力で！～Our memory in Tokyo～』のもと、9月1日(火)～3日(木)の2泊3日の日程で東京方面への修学旅行に行ってきました。雨に降られることなく、天候に恵まれた3日間でした。大きく体調を崩す生徒もなく、元気いっぱい3日間を全力で学び、楽しんできました。計画通り行程は進み、東京の空気感を存分に感じる事ができたようでした。

元気と笑顔の絶えない3日間、中学校生活最高の思い出ができたのではないかと思います。



1日目の昼食場所



東京スカイツリー



浅草寺雷門

今の自分にできることを当たり前と思わず大切にする



9月7日(月)になはんプラザにおいて、令和8年度「わたしの主張花巻大会」が開催され、花巻市内11校から12人の生徒が出場し、それぞれの思いを発表しました。本校からは3年A組の高野橋なつめさんが「当たり前の喜びを」と題して、「病気で入院」という経験を通しての気づきや思いを発表し、見事、**優良賞**を獲得してきました。

夏休み中から原稿の推敲を重ね、その後、発表の練習をくり返し、その成果が本番での堂々とした発表につながりました。